

第3回生物多様性 神戸プラン 2020 推進委員会 議事録

1. 開催日時 平成 25 年 5 月 22 日 (水) 10 時～12 時
2. 開催場所 市役所 3 号館 5 階 環境局 5 階南会議室
3. 出席者 武田委員、橋本委員、花田委員、横山委員、島本委員、安井委員、北条委員、横田委員、環境局環境創造部環境評価共生推進室

4. 議事内容

- (1) 平成 24 年度における生物多様性保全に係る事業の実施状況および平成 25 年度における生物多様性保全に係る事業の実施計画について

環境評価共生推進室より資料 1～資料 4 について説明。

《意見交換》

- ① 指標・目標「今見られない神戸の生きものの種数」について

<委員>

平成 23 年度・24 年度の実績に「今見られないとされていた種を再確認した」あるいは「神戸に産しないとされていた希少種を確認した」とあるが、こういった種は積極的に保全した方が良いかもしれない。その後のフォローはしているか。

<環境評価共生推進室>

いずれも経過観察を行っている。

- ② 指標・目標「生物多様性保全方針などの方針を定めて取組んでいる企業の数」について

<委員>

目標 30 社というのは、神戸に本拠地を置く企業ということか。

<環境評価共生推進室>

グリーンカンパニーネットワークにアンケートを行うことを考えている。

<委員>

日経エコロジー2010年5月号のレポートを見ても22社くらい「生物多様性ガイドライン」を作成しているとある。ここではそもそもどういう会社の何を対象にするのか。グリーンカンパニーネットワークにターゲットを絞るのも一案だとは思いますが。

<委員>

グリーンカンパニーネットワークは専ら公害や地球温暖化問題を主軸に選んでいる。現在のプランではこの目標だが、次に向けて工夫していく必要がある。

<委員>

生物多様性を冠にした会を作るのも一案。ただし安易に会を増やすのも管理していくのが大変だろう。

<委員>

市内横断して広げていく工夫ができないか。

<委員>

生物多様性に「特化した」方針、というのではなければ、もっと多いのではないか。

また、生物多様性に取り組んでいるが表に出していない企業や、やりたいがどうすればよいかわからないという企業もあるだろう。何もしないで取り組む企業が増えるものではない。

治水目的で里山管理をしている企業に、その里山管理が生物多様性に寄与しているのだと伝えると驚かれることがある。情報提供による気づきもある。企業に働きかけることが大切。神戸市独自では難しくても、関西広域連合と連携して企業の取組みを促進してはどうか。

③ 指標・目標「生物多様性に関する市民の認知度」について

<委員>

神戸市のアンケート結果は国の調査結果と比べて倍くらい高い。市政アドバイザーならこの目標は達成できるかもしれない。

また、生物多様性を全く知らないという人は減らさなければいけないが「認知している＝配慮している」ではない。

<委員>

認知度を上げることも大切だが、もう一步進めるなら「市民がどう行動しているか」を目標にあげても良いのではないか。

④ 「生きものさがしガイド」について

<委員>

著作権の問題がクリアできれば、先生が使いやすいようにパワーポイントなど電子データでも配布し有効活用を図ってはどうか。また市民団体にも配布してはどうか。市民団体は学校の環境学習に協力しているところも多く有効に利用してもらえるだろう。

<環境評価共生推進室>

小学3年生全員に配布した。余部がないために市民団体には配布できていない。

<委員>

デジタルデータにする際は鳥や虫の鳴き声を音声で聞くことができるように工夫すると良い。鳴き声が文字で表現されているのと実際に聞くのとでは子どもたちへの印象も全く違う。

<委員>

例えば同じ季節に同じような場所で出会える鳥でも、種によって林冠を利用しているものや林床を利用しているものがあるなど、森林環境との関係性を記載することで、多様性に結びつけてはどうか。

小学3年生には難しいだろうが、将来的に高学年～中学生向けの解説も加えると、多様性への理解を深められる。

<委員>

学校の先生が使いやすいよう、学習や指導のヒントなどを記した「利用の手引き」を作成し配布してはどうか。

<委員>

教育委員会の研修などで取り上げてもらってはどうか。

<委員>

(この事業に限らず) 学校との連携を図ることが大切。

<委員>

表紙に「〇〇年度版」と記載すると、内容が同じでも過年度のものが配布し難い。記載しないことで活用範囲を広げることができる。

(2) 生物多様性プラットフォームの活用について

環境評価共生推進室より資料5及び6について、また「生物多様性 神戸プラン 2020」の進捗状況をプラットフォームに掲載することを説明。各委員へ利用を依頼。

《意見交換》

① 活用について

<委員>

そもそもプラットフォームの目的は何か。

<環境評価共生推進室>

「生物多様性 神戸プラン 2020」作成時に、市民団体同士の横のつながりが薄い、自由な意見交換の場を設けて欲しいとの要望があったことから、Web上で自由な意見交換や情報共有を行うことのできる場を設けた。

<委員>

参加方法に「お問い合わせ下さい」と書くと、参加するには多くの手続があるのではという印象を起こさせる。必要事項を記載してメールすれば、すぐメンバーになれることを書いたほうがいい。

<委員>

学校の先生にPRして使ってもらってはどうか。先生も種の同定などに困っているだろう。

<委員>

ここに来れば、こんなことができるという目玉が必要。例えば、イベントカレンダーへ連動するというのも、雑多な多くのイベント情報の中に埋没してしまうことなく「神戸の生きもの系のイベント」で絞り込んだイベントカレンダーがすぐ見られるなら市民団体にも非常にメリットがある。

<委員>

どこの市民団体もそうだと思うが、公にはホームページを作成したり、会報を発行して配布している。会の中の情報のやりとりは、会員への一斉メールを利用している。複数の市民団体が参加する活動では、各団体の代表者がメールで連絡を取り合っている。

<委員>

参加者が増え、参加者だけでどんどん更新されるようになるまでは、こまめに管理をしていく必要がある。

② リスクについて

<委員>

誰でも自由に参加できるというのは門戸が広い反面、炎上する危険もある。少なくとも、プラットフォームの目的を明記し、同じ目標を共有する人の参加を求めていること記載すべきでは

ないか。またフェイスブックでは、書き込みは管理者が確認してから掲載するという設定ができるが、そういう方法は取れないか。

<委員>

匿名性を低くすると炎上の危険は下がる。ネット上では匿名でも、神戸市に参加を申し込む際には個人情報を記載してもらってはどうか。

<委員>

一方で、参加までのハードルが高いと参加者が減るという問題もある。

<委員>

メンバーが一定数まで増えてくれば、参加までのハードルを上げる手もある。

<委員>

ともかく「やってみる」ことが大切。やりながら問題が出てくれば、その度に解決方法を考え、解決していけばいい。

(3) 生物多様性推進委員会設置要綱の改正について

環境評価共生推進室より、平成 25 年 3 月に神戸市が制定した「附属機関及び有識者会議に関する指針」に合致するよう設置要綱を見直したい旨、説明。

《意見交換》

<委員>

基本的には異論はないが、議事録の公開は今回からか。議事録や会議の公開は積極的な公開を考えているのか。

<環境評価共生推進室>

会議の公開は次回からと考えているが、議事録はこれまでも情報公開条例に基づき原則公開であり、今回の議事録も公開となる。議事録や資料の公開は環境影響評価審査会と同等を想定している。

<委員>

公開することで、神戸市の取組みや生物多様性について PR する機会になる。